

学 園 だ よ り

# 太 白 山

(令和元年8月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 「朝の挨拶」について

副園長 山内 克訓

平成三二年四月に副園長として着任しました山内と申します。

実は学園に勤務するのは二度目になります。今から三〇年近く前に遡る平成三年四月、県職員生活のスタートである初任の職場として赴任し、女子寮で三年間過ごしました。入所する児童の雰囲気は当時と異なることは着任前から見当がついていました。日課についても、朝礼の始め方一つから異なっています。

昔と今、どっちが良いかという話はさておき、久しぶりに勤め始めた私の印象に最初に残ったのは職員と児童の朝の挨拶でした。

以前勤務した時は行っていないやり方で、その詳細な説明は省きますが、集った全ての児童や職員が一人ずつ全員と個別に挨拶を交わすことができるようになっていきます。人と人の関係は挨拶から始まるものです。毎朝顔を合わせる学園児童と職員では特に大切です。向かい合っただけでも直接で挨拶を交わすので、表情や声のトーン、目線、会釈の動作など、前回と少し変化があっただけでも思いのほか相手に伝わります。

一日の生活を一緒に過ごす者同士でしつかりと丁寧な挨拶からスタートすること自体、意義のあるものですが、毎日のこの繰り返しの中から、お互いの気持ちや体調の変化に気付くことができます。

私は、相手の目を見て挨拶することを心掛けているのですが、しつかり見返してくる人もいれば、いつこゝろに目が会わない人もいます。なんとなくですが、その日の相手の体調はもちろん、いずれは心の内まで分かかってしまいそうです。

シンプルなアイコンタクトと会釈、「おはようございます」の言葉に、様々な思いや気持ちもこもり、伝え合うことのできる挨拶。だからこそ、学園ではもちろん、家族や同僚、友人など、身近で大切な人たちと毎日交わす「挨拶」をもっと意識して生活しようと思えます。

皆さんも、朝の挨拶から素敵な一日を始めましょう！



## 「青葉寮長より」

青葉寮長 菅原 匡

今年度、児童の入退園を経て、今現在七名の児童と、寮職員六名で賑やかな中にもケジメを付けた寮生活を送っています。

構成メンバーが変化しても、青葉寮として大切にしていること(前年度退園児童からのメッセージ…相手を責めないこと、やる時はしつかり取り組み、休む時はしつかり休む)をグループワークで定期的に確認。相手を認めること、和を乱さない言動、児童一人一人がしきりに役になることを今年のキーワードに、皆で協力していこうと申し合わせていきます。

生活を振り返ってみると、テレビの順番や視聴時間等、些細なことで衝突する事はありませんが、いじめや仲間はずれにする事はありません。優しい気持ちを持つ児童が多く、プラス方向に団結しようという考え方は児童の長所であり、今まで関わった方(家族、学校、地域等)のお陰だと感じています。

これからも関係者の協力を得ながら、各児童の更なる成長を促したいと考えていますので、よろしくお願ひします。

## 「野球地区大会」

野球部監督 夏谷 朔

今年度の野球部では、全力プレーや協調性を身につけるため、「全員全力野球」をテーマに活動しました。全員がチームのために手を抜かず活動に取り組み姿勢を意識して、第七〇回全日本少年野球東北・北海道地区宮城大会に出場しました。

六月二六日から二八日まで開催された大会は、地元の宮城県で行われ、多くの関係者の方から声援を頂きました。結果は、残念ながら負けました。全国大会に行くことはできませんでしたが、三日間を通して子ども達の成長を強く感じた大会です。厳しい試合展開でも、先輩を中心にチームの雰囲気盛り上げていたこと、試合以外で他チームへの挨拶や運営側への感謝など、立派な姿を見ることができて、とても誇らしく嬉しい気持ちを持ってました。

チーム全体で一つひとつ課題をクリアしていき、全員で参加した野球大会ではこれまでの成長と今後の課題を確認することができました。一生懸命頑張った子ども達に感謝を伝えつつ、これからも続く野球活動で彼らと一緒に成長していきたいと思えます。

## 「野球大会が終わって」

広瀬寮 R

今年の大会ではキャプテンでピッチャーをやらせてもらいました。試合では、投げるのがすごく難しく負けてしまい、すごく悔しかったです。監督やコーチを全国に連れて行き、先生達に勝つところを見せたかったです。

野球ですごく自分が変わったと思います。結果よりも内容が大事だと思います。どんなに点が取られても、「ドスマイ」「次頑張ろう」など、声を掛け合う、またグラウンドや審判、応援してくれた人に挨拶をしつかりするなど、さわらびの良い野球が出来ました。ぜひ来年もその伝統を受け継いでほしいとおもいます。

生活野球というテーマはいつも中心にあるすごい基本のことだと思えます。生活で指示をしつかり聞けるから野球でも上手くなると思います。野球が大好きです。もっとたくさんやって、来年の大会もやりたいくらいだけで、その気持ちはおいときます。この思いをこれからたくさんの人にしてみたいです。こんな良い経験はありません。また、新しいことをこれからも見つけてみます。

## 「少年野球東北・北海道地区大会」

青葉寮 H

今年度の地区大会は宮城でした。七年に一度の宮城開催でした。

一日目は、選手交換会と抽選をしました。僕から、さわらび学園のチーム紹介をしました。たくさんの方が集まっていた、とても緊張しました。

二日目の朝九時から開会式をしました。僕はさわらび学園と書いてあるプラカードを持ち、先頭に立ち入場しました。朝日学園と試合をしました。守備の時、ライトゴロが来て後ろにそれてしまいました。バッターのRがカバーしてくれました。バッティングの時にもバットに当たったけど、ファールになってしまいそれからずっと打てませんでした。打ちたい気持ち、ボールを止めたい気持ちしかありませんでした。

三日目は大沼学園と試合をしました。フライが飛んできて取ることは出来ませんでした。とても悔しかったです。負けたくないと思って最後まで諦めないプレーをしました。負けてしまったけど、最後までやり抜きました。楽しくプレーすることができました。また、新たに気を引き締めて野球に取り組んで行きたいと思えます。



(野球大会・バドミントン写真)

## 「令和元年 野外活動」

実行委員長 石黒 勝秀

七月三一日から八月一日にかけて国立花山青少年自然の家にて、野外活動を実施しました。今回は男子児童十一人、女子児童一名、引率職員十一名の合計二十三名で活動しました。二日間とも晴天に恵まれた一方、高温のため活動中の熱中症が心配されましたが、全体を通して怪我や病気、トラブルなく活動することが出来ました。

一日目は、屋外でのオリエンテーリング、野外炊飯、ナイトハイクを計画しました。オリエンテーリングは、野外の気温が高く、館内でも熱中症計が常時危険を知らせる状況で、動き回ることが危険と判断し、代わりに沢に涼みにいくことにしました。浅い沢では、足首までつかるだけでしたが、普段賑やかな子どもたちが冷たい沢の流れにつかり静かに涼む姿が印象的でした。その後、野外炊飯でピザと焼きそばを作りました。男子はピザ、女子は焼きそば作りに取り組み、暑い中ではありましたが、全員で力を合わせ、取り組みました。夜はナイトハイクの予定でしたが、時間の関係でキャンプ場近くの斜面から星空を眺めました。子ども達は寝転んで夜空を眺める者、斜

面で転がり楽しむ者、熊鈴や懐中電灯でお化けのものまねをして周りを楽しませる者など、短い時間の中ではありましたが、夜の自然に触れあい、楽しい時間を過ごせたと思います。

二日目、天候に恵まれ、沢登りを実施しました。暑さの中、ヘルメットとライフジャケットを身につけ、沢までの山道を歩くのは大変でしたが、適宜水分と塩分を補給しながら、上流に向かって登りました。沢では、転んだり流されたりしながらも、不満を言うものはなく、皆で力を合わせて滝を上って記念撮影をしました。飛び込みスポットでは多くの子どもと職員数名が今後の抱負を叫びながら飛び込みました。昼食を採った場所でも、川の流れに身を任せて流される、泳ぐ、子どもと職員が入り乱れながら水のかけあう等をして遊びました。

二日間の活動を通じ、自然とふれあいながら、児童と職員の全員の協力のもとで、楽しく活動に取り組むことができました。今後は雨天だけでなく、暑さの中でも安全な活動を計画、実施していくこと等で新たな課題も出てきました。子ども達の貴重な経験の場として今後も継続してほしいと思います。

## 「野外活動に参加して」

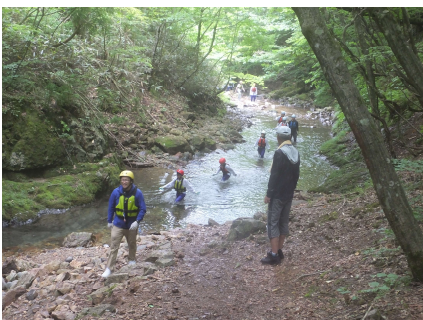
青葉寮 T

野外活動で花山に行きました。最初に出会いのつどいをしました。午後はソトどこオリエンテーリングをする予定だったけど沢に入って遊びました。水は冷たくて気持ち良かったです。

その後に、自然の家に帰って野外炊飯をしました。男子寮がピザで女子寮が焼きそばを作りました。最初にピザの生地を作りました。僕はあんまりうまく出来なかつたです。その後火をつけて火が消えないように薪を入れたりしながら火を見ました。ピザと焼きそばはおいしかったです。そのあとに丘から星空を見ました。三〇分くらい見ました。

二日目は沢活動をしました。一日目に行ったところのもっと上流から最後まで歩きました。ぬるいところと冷たいところがありました。水深は深いところで二メートルぐらいありました。昼食の前に五メートルぐらいの滝からダイブしました。結構高くて怖かったです。

野外活動は疲れることもあったけど、楽しかったです。



（野外活動写真）

## 「適切な付き合い方について」

学園心理士 田丸 陽一

学園では、入所児童に対して「性教育」を実施しています。年度を通して複数回実施していますが、第三回目（八月五日）の講師の依頼が私に由来して、担当させていただくことになりました。第三回目のテーマは「男女の適切な付き合い方」でした。思春期を迎えた子ども達にとって、恋愛は大きな関心事でしょう。在園中はもちろん恋愛禁止ですが、退園後のことを考えると「交際」について考える時間を持つことは子ども達の将来にきつとプラスに働くと考えます。実は毎年この回を心理士が担当していますが、時期が近づくたびに「一体どんな付き合い方が適切なのだろうか?」「難しいお題だなあ」と頭を抱えています。

最近子ども達に伝える内容の土台にしているのは、「デートDV」です。夫婦やパートナーなど親密な関係にある人の間で起こる暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）と言いますが、交際相手との間に起こる暴力のことを「デートDV」と言います。

「何が適切なのか?」を考えるためにも、「何が不適切なのか?」を考えてもらうことでヒントが見つかったり、

気づきにつながったりすると思っています。なお、性教育のハイライトは、寮の先生方に演じていただくデートDVの寸劇でした。先生方の熱演により、子ども達も楽しみながら学びを深めていくことができました。

子ども達にDVの寸劇を見てもらった後に感想を求めると、「脅して無理矢理約束を断らせた。」「怒った後デレデレしていて、この関係はいつまでも繰り返される。」「プライバシー侵害。」「付き合い方ということは自分も相手も尊重すること。」「などなど鋭いコメントをたくさん出してくれました。

「暴力には様々な種類があること」「被害に遭うのは女性が多いが、男性で被害に遭う人もいること」「暴力の目的は交際相手を失わないために相手をコントロールするために行っていること」などのポイントを子ども達と一緒に確認していくことができました。

ただし先述したポイントは、交際中だけではなく、普段の生活にも潜んでいる問題だと私は思っています。したがって、普段から他者を尊重し、自分らしさも大切にし、暴力を振るわない生活を子ども達と一緒に作りあげていきたいと思っています。

## 「プール活動について」

スポーツ担当 大野聖太郎

今年度は、気温があまり上がらずプールになかなか入れない期間が続きましたが、七月二十六日に入ることが出来ました。子どもたちも待ち望んでいた様子で、プール開きの日は子どもたちの無邪気な笑顔を見ることが出来ました。現在入園している子どもほとんどは水泳の経験がないため、水に親しみながら水泳の楽しさを伝えていき、水泳シーズン終了の際には「水泳って楽しい!」「やってよかった!」と言ってもらえるような指導をしていきたいと思っています。

また、今年度のプール指導では、子どもたち全員がクロールを泳げるようになることを目標に行っていました。基礎体力の向上だけでなく、できないことを諦めずに取り組むことで出来るようになる成功体験を積んでもらいたいと考えています。

学園で行われているスポーツ活動は、男子が野球、女子はバトミントンを中心に行っています。他競技よりも短い期間での活動となりますが、児童とともに少しずつ成長し続け、職員も児童も全力で楽しくプール活動を行うことが出来ればと思います。



### 今後の行事予定（抜粋）

- ・ 九月九〜十日 小学部修学旅行（於：岩手県）（分）
  - ・ 九月十一〜十三日 中学部修学旅行（於：東京都）（分）
  - ・ 九月十八日 秋の遠足（分）
  - ・ 九月二十五日 FASカップ
  - ・ 十一月一日 学園祭
- ※分：分教室行事

### 編集後記

夏の暑さもだいぶ和らぎ、朝晩も過ごしやすくなりました。暑い中でも子どもたちは常に元気いっぱい生活しています。

秋は学園祭があり、間もなく準備に入ります。引き続き、子ども、職員ともども頑張っていきたいと思えます。